

チカラシバ (力芝) イネ科チカラシバ属 *花期=7~10月

名前の由来=抜こうと引っぱつても簡単に抜けない、力一杯引くので。エノコログサを大型にしたような草姿で、しなやかで粘りのある強い根を張っている。穂は試験管ブラシの様な形をしており、別名ピンアライ (瓶洗い) とも言う。道端に生える大きな芝の意味、芝とは古語で「柴」小さいものを表す言葉からきている。日当たりのよい道端や裸地化した踏み固められたような所に生え、暗紫色をした長さ10~20cmの穂を出している多年草、日本固有種です、子供の頃穂を千切り手で握つたり緩めたりすると穂が上がっていくのを楽しんだり、穂をしごいて栗のイガだと称して遊んだりした懐かしい草です。*花言葉=尊敬・信念・気の強い



オヒシバ (雄日芝) イネ科オヒシバ属

名前の由来=日向を好んで生える芝、メヒシバに比べて逞しいので雄 (男) と命名、シバとは本来小さいものを表すことばであるが、共通しているのは多年草で根が強いことである。日本では本州以南に分布、世界では温帯~熱帯に広く分布、世界では同属のものが数種類あるが日本では本種のみ、特徴は地下茎や匍匐枝がなく株立、茎の基部に葉が集まり、葉鞘が茎を包んで折り重なる、花序は夏以降に出て立ち上がり先端に放射状に斜めに出す、小穂は左右扁平で幅が広い。似たのにメヒシバがあるが幅が細い。*花言葉=雑草のように生きる。



ヌメリグサ (滑り草) イネ科ヌメリグサ属 *花期=8~9月

名前の由来=葉を揉むとヌルヌルするところから。一見スズメノテッポウを大きくしたような感じ、本州~沖縄の湿潤な所に生育、茎は高さ30~60cm直立、叢生、花序は棒状高さ6~12cm径は5~6mm小穂は楕円形、淡紫色、上部にまばらに毛がある。今回の芦屋川沿いの河原に多く見かけた。匍匐していく節から根を出して増えていくのをハイヌメリグサと言う。*花言葉はない



トウカエデ (唐楓) ムクロジ科トウカエデ属 *花期=4~5月

名前の由来=唐 (中国) からきたカエデで切れ込みのある葉の形をカエルの手に見立てたことによる。別名サンカクカエデ。街路樹や公園などに多く植えられている、紅葉する葉が美しいので、高さは10~20m、樹皮は灰褐色、成木は樹皮が逆剥けのように剥がれて着いている、葉は対生、掌状の3脈があって浅く3裂する、雌雄同株、雄花と両性花が混在、種子はプロペラ状の翼がある。*花言葉=豊穰。芦屋市の街路樹に多くありました。



マユミ (真弓) ニシキギ科ニシキギ属 *花期=5~6月

名前の由来=昔この木で弓が作られていたことに因む。別名ヤマニシキギ。日本と中国の野山に自生しているが、庭木としても使われている、岡山の森林植物園のマユミの林は秋、種子が熟した時は一面に朱色に染まり見事です。葉は対生、葉身は楕円形で幅の広いの狭いのと変化が多い、葉縁に細かい鋸歯がある、葉脈ははっきりしている、芽は丸々しているが、近縁種のツリバナは新芽が鋭く尖っている。種子の果皮の色は白、薄紅、濃紅、とあるが熟す問われて出る種子はどれも鮮烈な赤い種子が4つ現れる。ツリバナは5つに裂ける。*花言葉=あなたの魅力を心に刻む・真心・艶めき。



エノコログサ (狗尾草・犬子草) 各種、語源は「ふわふわした花穂が犬の尻」尾に似てい所から、

今、歩いているといたるところで目につく草ですが種類も下記の様に7種類。右はコツブキンエノコロ。

エノコロ アキノエノコロ キンエノコロ ハマエノコロ ムラサキエノコロ・オオエノコロ

